

# 中根小の自然

第 28 号 2009 年 1 月 20 日

## 《自然のタネ蒔き : その 3 . 動物散布(被食型)》

鳥などの動物に食べられて運ばれ、糞として散布されるタネたちもいます。

### ① 鳥に食べられて・・・



紅く熟したウメモドキ(左)とアオキ(右)

鳥には歯がないので、植物の果実はふつう丸飲みにされます。でも種子は固い皮に包まれているので、消化されることなくそのまま排泄されます。種子が鳥の体内にある時間は数分から数十分で、この間に数メートルから数百メートル運ばれるのだそうです。こうしてたっぷりの肥料とともにタネが蒔かれています。また、第 18 号や第 25 号でも紹介したように、鳥やほ乳類に食べられる果実は、見つけやすいように赤や青、紫、黒などの目立つ色をして熟すものがほとんどのようです。



黒く熟したイヌツゲ(上)と、鳥に運ばれエノキに寄生するヤドリギ(右)



### ② ほ乳類に食べられて・・・



サルがよく食べるというヤマモモ

タヌキやクマ、ニホンザルなどのほ乳類が食べて、種子をはき出したり、糞として出したりして散布されるものもあります。でも、種子をかみ砕いてしまうこともあり、必ずしもうまくいくとは限らないようです。たとえばクマの糞を調べた調査では、サクラやアケビ、ヤマブドウなどの種子のほとんどが原形をとどめていたのに対し、ブナやミズナラなどのドングリやクルミは食べる時にかみ砕かれてしまって、健全な種子は一つもなかったそうです。



ミツバアケビ

右の写真はインドネシアのジャックフルーツですが、数十kgの果実が幹から直接ぶら下がっています。この巨大な果実は、林の下を歩くゾウに食べられてタネが運ばれるのだそうです。(ミツバアケビ、ジャックフルーツは八田氏撮影)理科支援員 宮内]

